

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	有限会社えがお
所在地 (県・市町村名)	大阪府枚方市
記入者名 (管理者)	齋藤 法子
記入日	平成 21年 10月 29日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な環境と地域との交流の下で、その人らしく当たり前の暮らしが出来る様、それぞれのペースを大切に、スタッフ一同日々の支援を心がけています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	えがおの理念、いい介護のための10か条、利用者の生活支援についての心がまえ、業務上の注意事項を掲示し、スタッフ一同自然な形で実践している	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	外部から認知症などについての講演を依頼されることがあり、キャラバンメイトとしての活動にも参加し、積極的にそのような機会を利用して認知症の方の暮らしなどを伝え、理解向上に取り組んでいる。気軽に立ち寄ってもらえよう、常日頃より取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	常日頃から気軽に声を掛け合い、困っていることがあれば助け合える関係を築けています。ご近所の方もよく遊びに来てくれます。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常的に近所付き合いを積極的に行い、近隣の理解を得られるように努めている。入居者も可能な人は老人会や自治会行事に参加したり、ぶらっとホームへお茶に行くなど、気軽に出かけて商店街になじみの店も多い。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホームの機能を、地域にも解放している。(認知症の理解や関わり方について相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入など。)ご近所の方が介護について相談され、介護保険申請時まで場の提供をした。また、近隣の在宅介護家族に気軽にきてもらえるようにしている		
あ				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価表を見てもらい意見を求め、再認識の機会となっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2006年6月より運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。日々の報告や事例相談など、意見を出し合いサービス向上に活かしている。第三者評価などの結果報告も行い、改善への取り組みも話しあっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	様々な情報収集に努め、入居者にとって有益なサービスを積極的に取り入れるようにしている。定期的に施設委員会などを開催し、事例検討、情報交換を行っている。他施設とも交流をはかり、サービスの向上に役立っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	入居者本人が契約することが困難である場合に、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業等の利用契約、第三者の関与等を含めて、入居者に不利益にならないように支援をしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を行わないケアを基本姿勢としている。全職員で取り組んでいるが、生命の危険を伴う時、家族と共に考え話し合い、同意書にサインをいただいたうえで最善の方法を取るようになっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書と口頭で十分に説明し、理解、了解をして頂くようにしているが、質問があればいつでも連絡頂き納得するまで話し合う様にしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が自然の会話の中で気軽に苦情や意見など言いたいことと言えるような雰囲気づくりをしているが介護相談員の訪問時にも聞いて頂くようお願いしている。直接言いにくければ、意見箱を設置利用していただくようにしている。苦情などがあれば、最善の策で代表者が直接迅速に対応している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度、暮らしぶりや健康状態の様子などを、写真も含めて文書にてお送りしています。来訪時には、個々に合わせて健康状態、職員の異動などについても報告しています。それ以外でも、容態の変化、受診の報告など、必要があれば、随時電話にて連絡報告をしています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	自然の会話の中で気軽に苦情や意見を言えるような雰囲気づくりを心がけている。重要事項には苦情相談窓口を設けている。また、苦情などがあれば、最善の策で代表者が直接迅速に対応している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に縦横が風通しよくコミュニケーションできる職場環境をこころがけている。職員の意見や提案を積極的に聞き、楽しく仕事をができるよう問題解決は迅速にするようにしている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事前に、希望休日を聞いたうえで勤務表を作成している。急な予定変更がある場合も、スタッフとの話し合いで調整するなど、柔軟に対応している。また、緊急時にもすぐに連絡を取り合いスタッフを確保できる体制が整っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職率は低く、めったに異動はない。全ての職員が同等に利用者に関わっており、何でも話し合える関係作りができていますのでダメージはあまりないと思われる。たとえ離職しても自由に遊びに来られている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加させている。参加者はレポートを作成し、全職員へその内容を伝え、知識技術の向上に繋がるようにしている。また、在職中の職員にも資格取得を積極的に支援しており、介護福祉士、ケアマネを実際に取得させた実績もあります。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス向上に役立つ情報を、地域同業者と共有できるよう、常日頃から連携を深めるよう努めています。介護支援専門員連絡会、施設委員会の役員をしており、施設研修会、勉強会や、事例検討、情報交換を行っています。GH東部地区連絡会の会長を務めており、3ヶ月に一度、情報、意見交換を行っています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	心身共に健康あつての仕事と認識している。風通しが大変よく、意見交換も活発で、楽しく生き活きと働ける環境作りに努めている。勤務時間なども本人の希望を取り入れ、無理のないようにしています。今年は親睦と激励のために社員旅行も実施しました。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得による昇給や、それぞれの得意分野を把握して、信頼して仕事を任せることによって、各自が責任を持ち仕事をしている。、向上心をもてるよう積極的に講習に参加している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人、家族同伴で見学してもらった上でご本人の、意思確認をしている。希望があれば、体験入居をしていただき、納得のうえで入居されている。移り住むことのダメージを最小限に食い止めるために、今までの暮らし、環境等の情報を得て、1ヶ月間程本人のペースでの生活の支援をし、本人らしさの理解につとめている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との話し合い、本人を交えての話し合いで不安や心配事、入居後の要望をとことん聞き取り、納得の上で入居していただけるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居後しばらくは、時系列で言動や行動を記録し、本人の理解に努め、安心して暮らせる支援をしている。お元気になり希望があれば在宅に、ケアハウスにと最善方法を職員全員で見出している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前必ずホームの皆さんの雰囲気を見ていただき、意思確認をしている。常に利用者の様子をさりげなく見てストレスがあるようならば、気晴らしの散歩に出かけたり、本人が今何を望んでいるのかを家族とも話し合い、なるべく自然な形で新しい生活に馴染んでいただけるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活食事も共にし、日常生活の中で喜怒哀楽を感じあい、本人の人生経験の知恵などをスタッフ皆で傾聴し、そこから学び合ったり、お互いに支えあって、まるで家族のようである。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	少なくとも月に一度以上は来訪や帰宅、外食など、本人が家族との交流を促している。職員と家族も冗談を言ったり、言いたい事を気兼ねなく言い合って、和やかな雰囲気の中で信頼関係を築き、「家族の協力あつての最善の介護」という共通意識を持っていただいている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会に来れない家族に対しては、月に一度様子を知らせる手紙を送っているが、家族との交流を積極的に行い、意見や要望を聞くようにしている。音信不通となっていた家族とも、こちらからの呼びかけによって本人の誕生日に10年振りに再会された事例もある。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に限らず、馴染みの人との関係を継続できるよう支援、知人に押し花の手作りはがきで手紙を出したり、希望があればスタッフが付き添って逢いに行ったり、遊びに来ていただき、居室で共に過ごしていただくなど、できる限りの支援をしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	少人数で利用者とスタッフがひとつの話題で盛り上がることも多く、会話が弾み笑いが絶えません。喧嘩することもありますと言いたいことを言い合ってストレスを溜めないようしています。お互いに部屋を行き来しておしゃべりしたり、励ましの声を掛け合ったり、利用者同士も良い関係を築き、支え合って暮らしています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設や病院に移られた方の所へ定期的に訪問して関わりを大切にしています。退去後も気軽に相談に見えたりご本人が亡くなられた後でもそのご家族と交流がある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「わたしの気持ちシート」アンケートを記入してもらったり、普段の会話の中から思いを把握し、希望をなるべく叶えてあげられるよう努めている。職員付き添いで墓参りの希望を叶え、喜んでいただいた事例もあります。朝は起きた時間で朝食をとるなど各々のペースを大切にしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後に家族や本人より入居前の状況を出来得る限り聞かせていただき、本人らしい暮らしの支援となるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	マイペースでの暮らしの支援を心がけている。その日のバイタルチェックや動作、表情、食欲、言動などに気をつけて把握に努めている。出来ること、出来ないことを把握し出来ないことの支援をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく暮らすには、日々の変化を見逃さず支援出来るようにしている。1人1人等身大の課題、リスク、楽しみ、悩みを記録,必要があれば随時、関係者家族とはなし合い介護計画をたてるようにしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時見直しを実施するのはもとより、状態の変化に応じて、本人の意向、家族、スタッフなどと話し合い、よりその時その人にあった支援が出来るように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、介護記録、カンファレンスに、日々の様子やケアの実践、効果などを個別記録することによって、情報を共有して、ケアや計画の見直しに活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族とも密に連絡をとり、本人、家族の状況、要望を把握し、生活の支援・受診・外出・買い物・必要手続きの支援等状況に合わせて柔軟にしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の希望もあり、足マッサージのボランティアを定期的 に受け入れている。介護相談員の訪問や、医師によるボラン ティア等もあり、なじみの関係で和やかな時間作りの支援をし ている。先日はえがお内にてボランティアのバンドのコンサ ートがあり、大変盛り上がりました。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケ アマネジャーやサービス事業者と話し合い、他 のサービスを利用するための支援をしている	宅老所、他のグループホームとの交流は設立時より続いている。 本人にとって必要なサービスは個々に随時支援するよう にしており、必要があれば見学に付き添い、希望があれば他 サービスも利用できるようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や 総合的かつ長期的なケアマネジメント等につ いて、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議時、必要に応じて悩み、相談、助言をお願い している。設立時より権利擁護事業を利用して、キャラバ ンメイトとしての活動も協働でおこなっている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が 得られたかかりつけ医と事業所の関係を築き ながら、適切な医療を受けられるように支援し ている	かかりつけ医への通院介助、看護師によるバイタルチェック、 訪問歯科治療を実施している。緊急時対応マニュアルを 整え、適切な医療が受けられるような体制をとっている。入居 者の身体状況を常に把握することに努め、かかりつけ医に伝 え、薬の見直しなども気軽に相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーやその人らしさを尊重している。個人情報に関する書類は、保管場所を決め、目につかないよう適切に管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	職員一同入居者には積極的に話しかけ、和やかな雰囲気の中での行動や会話から、自然に心や体の変化、希望を聞き取るようにしている。必要があれば、面談して気持ちを話してもらい、なるべく希望にそった暮らしができるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆マイペースな時間で過ごしている。、昼、夜の食事時間は決まっているが、それ以外は居室、テラス、リビングなどで各々自由に過ごしている。また希望あれば体調を見ながら墓参り、外食等叶えるようにしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や髪型について、入居者一人ひとりの意向や嗜好に配慮している。入居者は個々の好きな洋服を着、化粧もかかさず皆おしゃれである。定期的に近所の美容院を予約し、付き添い、利用の支援をしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆積極的に食事づくりのお手伝いや配膳、後片付けをしてくださる。調理方法などの提案を求め、コミュニケーションの一環となっている。その日の体調や健康状態に合わせて調理し、食べやすい大きさ、食欲をそそるような彩、季節感など、盛り付けにも気を配っている。誕生日や敬老の日などには、希望のケーキやおはぎ、お弁当を出すなどして皆に楽しんでいただけるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば、付き添いをして買い物をしている。希望により本人用の好きな牛乳、ヤクルト、ヨーグルト等配達してもらっている	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつの使用をなるべくしないで済むように、排泄パターンを表情などで読み取り、トイレ誘導を可能な限り行っている。リハビリパンツ→布パンツに戻す工夫もしている。トイレもリハビリのひとつと考えている。職員も排泄の講習を受講し、気持ちのよい排泄支援ができるよう心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好みに合わせた入浴をできるように援助している。ひとりで入られる方は見守り入浴し、高血圧の方には入浴時間に注意をしている。歌が好きな方とは職員も一緒に歌を歌ったり、おしゃべり好きな方とは、世間話を楽しんだりしています。入浴嫌いの方が冗談を言うなどしながら誘導し、拒否無く入浴を楽しんでいただけるようになりました。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	季節による寝具の入れ替えや、日光消毒、シーツ・パジャマは清潔に保ち快眠できるよう支援している。日中活動の工夫で、夜間安眠できるようにしています。必要があれば安心してできるように添い寝することもあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の皺伸ばしやたたみをおしゃべり、唄ったりしながら、協力して和気藹々とされている。気晴らしに外出、外食、コンサート演劇鑑賞も行っています。綾小路きみまろやドリフ、皆の写真のスライドショーのなどを流すと大笑いして盛り上がっています。陽気に誘われテラスでウサギ、犬と戯れ近所とお話したり自由に過ごされている。希望により久振りに、日帰		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。家族が本人に渡している小口現金は本人管理で自由に使えるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歌や踊りなどの演芸事が好きな入居者が多いので、積極的にコンサートへ出かけたりしている。また、ご家族との外出も支援している。喫茶店、外食、買い物、散歩、老人会への出席など個々に合わせて援助している。花見や虫見物など、定期行事も積極的に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段から、テレビを観たり、会話の中から「どこ行きたい、あれがみたい」などの希望を聞き、なるべく実現できるように支援している。墓参りの希望があり、職員が付き添い実現し、肉親との再会を果された事例もある。家族に働きかけ墓参りにつれてもらいカメラに納め映像で見える様にした		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や手紙など自由に書いていただいている。希望があれば、電話の支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問していただけるよう、声かけしている。知人などの突然の訪問があったりするが、自室でゆっくりと過ごしてもらい、また、外食・外出なども自由にしていただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを基本姿勢とし、全職員が取り組んでいる。転倒防止に手摺、危険居住スペースのいたるところに、1人1人に合わせクッションやつかまり用の椅子を置いたり、骨折防止のためにサポーター付きのズボンを着用していただきたき身体拘束を行わず、安全を確保できるよう工夫した例もある		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には、日中従業員の目の届く玄関や窓には鍵をかけず、天気の良い日は自由にテラスに出れるようにしている。入居者の状態に応じて必要であると判断すれば、二重鍵をかけるなど、臨機応変に対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の状況を把握し、居室に施錠されている時は足音、物音で判断し、さりげない声掛け、見守り、支援をするように心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や洗剤、刃物などの注意の必要な物品は、保管場所、管理方法等を明確にし、調理中その場を離れるときは職員同士の声かけをしている。見守りの中栗の皮むきをしていただいたり、自ら広告をハサミで切ってメモ用紙を作っていたり、出来ることはしてもらうように支援している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に応じてベット横に手摺代わりになるように、椅子を置いたり、怪我、滑り止めルームシューズで転倒事故防止に努めている。ナースコールの設備も整えている。防災訓練にも参加、火災予防にオール電化とし、もしもの時は近隣とお互いに笛で知らせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故や急変が生じた場合に備え、緊急連絡網などを作成し、備えている。応急手当の訓練、防災時の訓練を年に一度定期的に行っています。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者の心身の状態等に応じた避難、誘導、搬送の体制を確保し、定期的に避難訓練を行っている。職員だけでは対応できない場合も予測、笛を鳴らし、近隣の協力を得て避難訓練をした。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族に日ごろの行動を報告し、リスクについても説明、話し合いをしている。状態の変化がある場合、その都度話し合いの機会を設けている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	生活を共にしているので常態の変化を把握しやすい。体調の変化、入居者の心身の状態に配慮すべきことが生じた場合、薬の副作用等主治医や家族、スタッフで相談しながら対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬ミスのないよう担当者を決めている。処方箋は職員全員が確認できるよう日誌とともに即確認できるようにしている。新しい薬が出たときは特に副作用などがないか注意して見守り、医師にも伝えている。なるべく薬を飲まないで過ごせるよう医師と相談している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜豊富な食事で食物繊維の摂取、水分補給、ビフィズス菌(サプリメント)服用、ヨーグルト、散歩なども取り入れ、個々のサイクルで健康排便が出るように工夫している。排便に関する研修を受けて取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)又訪問歯科受診の支援をしている。歯科医からケア方法の指導を受け、日常のケアに役立っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者ひとりひとりの栄養と、旬の食材をバランス良く取り入れながら、水分摂取は自然なかたちで1日1500ml以上飲んでいるか把握、日誌に記録確認している。体重増減に気を付け薬草茶なども取り入れ、個々の必要な水分量を保てるように取り組んでいる。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居前には感染ウイルスがあるかどうかを確認、入居後毎年結核予防のレントゲンを実施している。外出から帰ってきたときは、消毒スプレー後手洗いを習慣にしている。感染の恐れがあるときには、手袋をしてサービスを行ない、消毒を徹底するなど、感染の予防に努めている。職員も手洗いの徹底に努め温度、湿度に気を付けている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日掃除を欠かさず行っている。調理器具、食器は高熱乾燥、布巾は除菌して使用している。食材に関しても無添加食材を利用するなど、安全性に気をつけ旬のものを食べて頂くようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	外観も普通の家そのもので、季節の花を楽しめるよう手入れしている。テラスから見える家庭菜園のゴーヤ、きゅうり、トマト等の収穫を楽しみにされている。増設したテラスで過ごすことで、ご近所さんとも顔を合わせる機会が増え、声をかけていただいている。子供達が遊びにきてくれるなど、生活の場として、地域に溶け込んでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭そのものの雰囲気である。リビングからは外の景色が良く見え、お天気や植物の成長などを毎日肌で感じ、会話している。クリスマスやお正月、節句などの行事には、一緒に飾りつけを行い、季節を感じていただいている。日中はなるべく自然の光の中で過ごしてもらい、カーテンや日よけ、グリーンカーテンのなどで光や温度の調節をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い空間なので特別な空間を設けることは無理だが、入居者同士がお互いの部屋を行き来したり、おしゃべりしている。テラスでの食事、おしゃべりは開放的で飼い犬、うさぎ、子供達と戯れ、思い思いに自然な形で過ごしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居する以前使用していた家具、仏壇、生活用品を持ってきて、自分なりの空間を作っていた。入居後も、行事の写真や、レクで作った作品、家族からの贈り物を飾るなど、居心地のよい空間になるよう心がけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温湿度計を設置し管理している。なるべく自然の空気の中で暮らせるよう、夏はスタレを設置窓を開け、野菜でグリーンカーテンを作り、目で楽しみ、食べて喜んでいる。冬冷気が入らないよう窓に工夫している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	機能低下を防ぎ、かつ安全に行動が出来るように、手摺、柵、クッション、家具の配置等気配りしている。居室内に椅子を手摺代わりになる様置いたりしている。危険箇所と思われるときは、職員1人1人からの意見で、即改善するようにしている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	今のところ個々の居室に明確な違いがあり、特に必要がないので居室に名札を付けたりはしていない。混乱が起こりそうなときは、さりげなく声かけをするようにしたい。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周に家庭菜園、花の鉢があり水やりをしながら成長に喜び、収穫を楽しみにしている。収穫した野菜を絵に書き、苦手なゴウヤも美味しいと食べている。増設したテラスは近隣との触れ合いの場となっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

隣近所と仲良く交流しながらそれぞれのペースで、安全かつ安心して暮らせるように支援しています。入居者、職員共々コミュニケーションを大切にし、笑い声が絶えずとてもアットホームで明るい雰囲気です。